

今週のメニュー

■トピックス

◇樹脂サイディング普及促進委員会 ホームページ紹介

樹脂サイディング普及促進委員会

■随想

◇新和環境株式会社の塩ビ壁紙リサイクル事業

第6回 産廃処理業界での生き残り戦略(終)

新和環境株式会社 代表取締役社長 近藤 亮介

(一般社団法人日本壁装協会 環境顧問)

■編集後記

■トピックス

◇樹脂サイディング普及促進委員会 ホームページ紹介

樹脂サイディング普及促進委員会

今回は、本メルマガで何度かご紹介している樹脂サイディング(外装材)の[ホームページ](#)についてご紹介します。

ご存知の方も多いことと思いますが、樹脂サイディングの生まれ故郷は北米。正確な年齢は判りませんが、1960年代初頭と言われていいますので、約50歳になります。1980年代以降、耐久性、メンテナンス性、施工性に優れることから急速に普及が進み2000年初頭には米国の外壁材市場の約半分近くのシェアを占めるに至りました。

当協会でも1990年頃からこの商品に着目し日本市場への紹介を目指し関係者とともに調査を開始、90年代半ばに北米からの輸入販売が始まりました。

ちなみに、日本における樹脂サイディング発祥の地は室蘭とされており、1980年中頃に施工された物件が今も健在です。

樹脂サイディング普及促進委員会のホームページが開設されたのは2002年。約10年が経ちました。この間、数度のリニューアルを経て現在に至っていますが現在ご覧頂いている内容は昨年3月にリニューアルしたものです。

寒冷地の北海道では凍害を受けないことから樹脂サイディングの認知度は大分高まっていますが、東北以南ではまだまだ認知度が低く、樹脂サイディングの存在を知らない方も多くおられます。



樹脂サイディング 施工例



樹脂サイディング普及促進委員会 HP

「樹脂サイディング」「塩ビサイディング」の言葉を知らない方々に如何に委員会のホームページに辿り着いて頂くか？は今も大きな課題ですが、近年は東京、神奈川、埼玉、千葉の関東圏や大阪、名古屋、福岡等大都市圏からのアクセスが多くなり全体の約70%を占めるようになってきました。正確には判りませんが「高耐久」「メンテナンスが楽」といったキーワード検索により閲覧頂いているのではないかと思います。

また、数年前まではサイディングの工業者さんや工務店さんからのお問合せがほとんどでしたが、近年は一般ユーザーの方々から「自宅のリフォームに樹脂サイディングを使ってみたい」「施工した物件を見てみたい」といったお問合せが増えたことも大きな変化で、徐々にではありますが、北海道以外の地域でも認知して頂く方が増えてきていることを実感しています。

「樹脂サイディング」を扱って頂いている工務店さん、工事店さんも「高耐久性」や、「塗装の塗替えが不用」でメンテナンスが楽といった樹脂サイディングの特徴を売りに全国各地に広がってきているようで、インターネット検索をすると多くの件数がヒットするようになってきています。

今後も、より多くの皆さんに委員会ホームページをご覧頂き、樹脂サイディングを認知、採用頂けるよう内容の更新、充実を図るとともに、お問合せ頂いた方々への迅速な対応に心がけて行きたいと考えております。

最後になりますが、ご自宅の外壁リフォームをお考えの方は是非、樹脂サイディングも選択肢の一つとしてご検討を頂ければ幸いです。お問合せをお待ちしております。

## ■ 随想

### ◇新和环境株式会社の塩ビ壁紙リサイクル事業

新和环境株式会社 代表取締役社長 近藤 亮介  
(一般社団法人日本壁装協会 環境顧問)

#### 第6回 産廃処理業界での生き残り戦略(終)

#### 12 新和环境の「内装ECO解体」

新和环境の本業は、「建設廃棄物の機械選別処理業」であるが、この数年、世の中からのニーズもあり、「内装解体工事現場における分別業」、すなわち、「内装ECO解体業」に力を入れている。考えてみれば当たり前のことかもしれないが、「混合されてしまった廃棄物を分別する」よりも、内装解体工事の段階で分別をする方が分別効率は高い。つまり、「解体こそ資源循環のスタート」ということである。

これまで、内装解体工事の現場で問題になっていたものの一つに、いわゆる「クロス付き石膏ボード」がある。「クロス付き石膏ボード」の状態でも、割増費用を支払えば、石膏ボードのリサイクル施設でリサイクルすることができた。しかし、石膏ボードのリサイクル施設では、「クロス付きの石膏ボード」のまま、リサイクルプラントに投入し、クロスごと石膏ボードから表面の「紙」を剥離して、石膏粉を取り出すことになる。したがって、「副産物」として、「クロス付きの剥離紙」ができてしまい、これはリサイクルできずに処分されることになる。「割増料金」が必要なのは、このことが理由である。

また一方で、これまでは、内装解体工事現場において、「石膏ボードから塩ビ壁紙を剥がす分別解体」をしても、「剥がした塩ビ壁紙」のリサイクル先を確保できなかったのも、そ

のような手間をかける意味はなかった。しかし、これからは、「剥がした塩ビ壁紙は、新和環境の叩解分離ラインでリサイクル」、「クロスを剥がした石膏ボードは、より安い処理費でリサイクル」、「石膏ボードリサイクル施設では、剥離した紙までリサイクル」ということが可能になり、一つの問題が解決される。内装解体現場において、「クロスを剥がす」という作業が、標準手順になることが理想的である。

新和環境では、「内装 ECO 解体」のメニューに、「塩ビ壁紙と石膏ボードの分別解体」を加えた。(図 19)

自社の内装 ECO 解体工事部門が剥がした壁紙であれば、「異物混入のリスク」を低減することができるし、誤って混入して「叩解機」を破壊してしまったとしても、それはそれこそ「自己責任」である。

### 13 「広域認定」に向けた取り組み

既に述べた通り、塩ビ壁紙のリサイクルを推進するためには、まずは、工事現場における「施工端材」、「剥がし材」の徹底分別が不可欠である。

そして、それだけでなく、それを小口回収するシステムが必要になる。これを低コストで実現するためには、塩ビ壁紙の「動脈物流」を使えるとよいわけだが、そこには、「廃掃法」上の問題がある。

そこで、日本壁装協会では、「広域認定制度」の申請を検討している。製品配送車両や、問屋の倉庫などを活用して、合理的に低コストで利用しやすい小口回収システムを構築することができると、塩ビ壁紙のリサイクルを一気に推進することが可能であると思われる。

### 14 終わりに

今、新和環境が属する「産廃処理業界」は、「最終生き残り競争期」にあると認識している。マーケティング用語においては、「衰退期」と呼ばれる、最も苦しいステージである。しかし、「衰退期」が訪れることは、いかなるビジネスであっても、避けられないことである。同じ商売を、同じように、何十年にもわたって、続けていけるような幸福は、この世の中には存在しないのであろう。

このようなステージにおいては、「普通の営業活動」が全く通用しなくなる。「明確な理由」がないと、全く売れなくなってくる。そして、力不足の営業活動において、どうしても多くなってしまうのが、「他社よりも安くする」ということである。

確かに、「安い」というのは、「明確な理由」になる。しかし、競合に「対抗値下げ」されたら、その「理由」は、簡単に打ち砕かれる。しかしながら、わかってはいても、どのようなビジネスの、どのようなマーケットでも、「衰退期」では、どうしても、このようにして、「低価格競争が激化」してしまう。

しかしながら、「低価格競争を勝ち抜くことだけ」で、会社は持続的な発展をすることは不可能である。これには、限界があり、実際に、処理業界においても、“限界”の兆候が出てきている。

「衰退期」において、競合と戦い、生き残るためには、「“安い”以外の理由」が不可欠になる。つまり、「何かで1番」にならなければならない。「どこで」、「何を」、「誰に」売って1番になるかを考え続けなければならない。これを考えることが、まさに、「マーケティング」というものである。



図 19) 新和環境の内装 ECO 解体のチラシ

「衰退期」においては、「1番」と「2番」では、全く競争力が異なる。以前、いわゆる「事業仕分け」で「2番じゃだめなんですか？」という発言が注目されたが、ビジネスで、生き残るためには、「2番」ではダメなのである。日本一高い山は「富士山」と誰でも答えられるが、二番目と言われても「北岳」と答えられる人は少ない。（“きただけ”と入力しても、漢字変換さえされない）同様に、日本一大きい湖は「琵琶湖」だが、二番目の「霞ヶ浦」の正答率は下がるだろう。「2番」が「1番」に勝つためには、「値引き」が必要なケースが多くなる。「2番」は「1番」ほど、利益を上げられないし、「利益を出せない」可能性も高い。

重要なのは「1番になること」ではなく、「1番を“目指す”こと」である。何かで1番を目指すこともできないようであれば、その商売で生き抜くことはできない。新和環境は、「塩ビ壁紙の叩解分離事業」と「内装ECO解体事業」のコンビネーションで、厳しい「衰退期」を生き抜いていこうと考えている。

(終)

⇒ [バックナンバー](#)

\* 新和環境柏工場

〒277-0863 千葉県柏市豊四季 945-8

TEL 04-7157-1047

## ■ 編集後記

「随想」の塩ビ壁紙リサイクル事業が今号で最終回となりましたが、たまたま先日、この塩ビ壁紙を叩いて分ける、「叩解・分離技術」の現場を見学させていただく機会を得ました。また、ここで分離した塩ビの利用法として、今月始めの[「トピックス」でプラボーを紹介](#)していますが、文中でも述べられているように、壁紙リサイクルが、技術開発から事業へ向けて着実に進んでいると感じました。今後に期待すると共に複合材のリサイクル技術開発に向け尽力していきたいと思えます。（鈴蘭）

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)